

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 22 年度

事業所番号	2774002857		
法人名	株式会社 ビケンテクノ		
事業所名	メルシー緑が丘グループホーム		
所在地	大阪府豊中市少路1丁目8番22号		
自己評価作成日	平成 22年 3月 30日	評価結果市町村受理日	平成 22年 7月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774002857&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 5月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>私達のグループホーム(家)は駅や公園が近くにあり、ゆとりのある運営を行っています。ご入居者の状況を心から理解し、ひとり一人の生活スタイルを尊重し「心豊かに、支え合う場」として、穏やかに安心して頂ける暮らしを築いています。</p> <p>①手厚い人員配置(個別対応を重視)</p> <p>②地域の活動に参加し、つながりを広げている。</p> <p>③毎朝公園にて、全入居者とラジオ体操を行っている。</p> <p>④日々の食事、行事食すべて手作り。</p> <p>⑤余暇活動に繋がる幅広いボランティアの受け入れ。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは駅からすぐの恵まれた立地条件にあり、居室やリビングからは遠くの山や街並みが展望でき、近くにはモノレールが走り、行き交う様子や公園を一望できる景観の良い施設です。ゆったりとした設備と余裕のある人員配置を行っており、利用者の希望を尊重して「行きたい所へ出かける」個別支援を行っています。提携医師、併設施設の看護師を中心とする24時間医療連携支援体制を整えており、利用者や家族の希望に添って終末支援も行っています。3食ともに手作りの食事を提供しており、利用者は買物や食事づくりなどで自らの役割を持ち、日課として行動しています。毎日外へ出て散歩や体操をしたり、地域のふれあいサロンやグランドゴルフにも参加しています。保育園児との交流、文化祭や老人会への参加、図書館の活用、茶道ボランティアの支援を受けてお茶を楽しむなど、地域密着型サービスの意義を理解し、利用者が地域の一人として暮らせるように支援しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に掲示し、毎日全体申し送り時に、全員で唱和し、理念を共有して実践に繋げている。	理念ではホームを「地域の中で自分らしく生き、過ごせる我が家」と明記し、管理者と職員は利用者が地域の一員として暮らせるように地域とのつながりを大切にしています。理念はホーム玄関に掲示して、利用者・家族・職員・訪問者等で共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝、公園でラジオ体操を地域の方たちも参加され一緒に行い、また散歩で挨拶を交わすなど、ふれあう機会も多く、日常的に交流している。	利用者は毎朝公園に出かけ、遊びに来ている幼児やそのお母さんと話をしたり、犬の散歩中の飼い主と犬のことで話が弾んだりしています。月に2回、開催される地域ふれあい交流サロンに参加して話をしたり、手作りおやつを楽しんだり、グランドゴルフ、文化祭、敬老会、保育園の催しなどに参加したりしています。職員は中学生の体験学習を受け入れる、地域ボランティアの協力を得た取り組みをする、ホーム周辺の掃除をするなど、利用者が地域の一員として暮らせるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域での活動への参加を通し、地域の方々と情報交換し、認知症の方の理解を共有し、交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を実施出来ない。	運営推進会議の規程を定め、3ヵ月に1回の開催を目指しています。昨年は7月に開催し、利用者・家族・校区福祉委員会会長、介護相談員、地域包括支援センター職員、市職員等の参加を得て活発な意見交換をしています。ホームからは年間行事や利用者の生活状況などを報告し、地域からは多彩な地域行事の紹介や参加の呼びかけなどがあります。また、介護相談員の活動報告、利用者や家族からの意見、終末ケアについてなど多くの発言があり、有意義な会議になっています。	運営推進会議を起点として地域との付き合いが確実に広がりつつあります。ホームでは定期開催を目指していますが、今後は2ヵ月に1回の開催が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との情報交換、有効な場として位置づけ、必要な手続き等相談し、指導を受けている。	市高齢介護課からは市の事業についての説明を受けたり、介護保険制度改正等の情報提供を受けたりしています。ホームからは課題についての相談を行い、事故報告や外部評価結果を報告するなど、日頃から相談できる関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束、精神的拘束は一切行っていない。フロア入り口ドアのテンキーを解除し、各フロアを自由に行き来できるようにしている。 一階玄関の鍵に関しては、安全面を考慮し施錠している。開放感のある工夫や、希望時に外出が出来るような人員体制を整えている。</p>	<p>身体拘束や言葉での拘束等は行わない方針で職員研修を行い、方針を徹底しています。各フロアのベランダ、玄関、エレベーターには施錠していません。1階の総合玄関と外階段に繋がる各階2カ所の扉には、安全確保の目的で終日鍵をかけています。</p>	<p>日中は1階総合玄関の鍵の開放が期待されます。外からは開けられず、内側からは開けられるような鍵のスタイルを検討し、利用者の安全が守られ、なおかつ家族や来訪者の利便性が図られるような工夫が望まれます。今後は運営推進会議の議題として検討されてはいかがでしょうか。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し、資料等、職員に配布し、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>社内管理者研修で学び、地域ネットワーク会議に参加し、講義を受けている。必要な人には活用できるよう支援していきたい。今後も職員ひとり一人、研修等参加し、積極的に取り組んでいきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書を読み上げ、十分に説明し納得した上で契約を交わしている。解約時は納得して頂けるよう医療、福祉機関等、連携し、退居の為に必要な支援を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のなかで、入居者個々が不満や思い等、引き出せるよう個別でゆっくり関わる時間を作っている。家族会や面会時、また、カンファレンス等家族に参加して頂き、気軽に、意見や要望を聞かせて頂き、運営に反映させている。	年に1回開催される家族会に出席し、家族の意見や要望を聴取して、ホーム運営に活かしています。また、利用者や家族に個別の話を聞いたり、計画作成時にカンファレンスに参加してもらったりして、意見反映に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、カンファレンス等に、職員の意見等、聞く機会を設け、意見を共有し、サービスの質の向上に努めている。	管理者は、月に1回の職員会議やカンファレンスに参加して職員の意見を聞いています。日常的な介護場面や入浴介助、夜勤、休憩時間などを共にすることで、職員と同じ目線で課題に取り組めるようにしています。職員は管理者を通じて業務の改善や意見反映が行われていることを自覚しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実力、勤務状況を把握し、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より講師を招き、社内研修を開催している。また外部研修にも参加し、研修発表会を設け、全員が共有出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会、地域ネットワークへ参加し、サービスの質の向上を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい環境、ゆったりとした時間をつくり傾聴し、職員との信頼関係を築き上げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、家族交流会等、相談、意見、要望等、聞かせて頂き、対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様より、情報を収集し、必要とすることを見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご入居者の黒子となり、出来ないところを支援し、娘、嫁、孫の立場で家族の一員として、支え合いながら、生活を共にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで生活状況を常に報告し、又カンファレンスに参加して頂き、意見、要望を伺い、協力頂きながら共に支え合い、より良い関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた生活、背景等、十分に理解し、より良い関係づくりが保てるよう支援している。	旧友が来訪されたり、外泊で自宅に帰られた時に近所の人と出会ったり、入居される以前に居住されていた地域の人々との交流があります。行きつけの美容院を利用したり、かかりつけ医を受診したり、馴染みの関係を大切にしています。外出支援では馴染みの喫茶店やレストラン、図書館などに出かけたりもしています。知り合いの茶道ボランティアが来られたり、友人に手紙や年賀状を出されるよう援助したり、馴染みの関係が続くように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に支え合い、又、関わりが持てない方には、職員が橋渡し、より良い関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入院や亡くなられた方には、お見舞いや、葬儀に参列したり、又家族様からお手紙をいただいたり、当グループホームを紹介頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の時間をつくり、思いを聴き、意向に添えるよう努め、又、意思疎通の困難な方も、行動や表情を見逃すことなく、ひとり一人ゆっくり関わる時間を持てるよう努めている。	個別に意向を聴取して、思いや願いを実現できるように支援しています。コミュニケーションの取りにくい場合でも、利用者の表情や態度から意向を汲み取る努力をしています。家族や介護相談員、ボランティア等を通じて、日頃は聞けない要望や意見等を聴き取ってもらうこともあります。また、手話通訳ボランティアの協力を得ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの情報を収集し、センサー方式を活用しながら、自分らしい生活が送れるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化を見逃さないよう観察し、個人日誌、個人経過表に記録し、申し送りにて、個々職員が把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々、利用者の気づきがあれば、気づきノートに記録し、カンファレンスで話し合い、家族様にも参加して頂き、又参加できない家族様には、事前に意見・要望を伺い、現状に即したケアプランを作成している。</p>	<p>介護計画作成時には細やかなアセスメントを行い、利用者・家族の希望や願いが反映できるように努めています。カンファレンスに家族の参加を依頼して課題を共有したり、介護方針を調整したりしています。また、月に1回モニタリングを実施し、介護計画書が効果的に実践されているかどうかの確認をしています。利用者の状況に合わせて随時見直しを行います。大きな変化が無い場合には3カ月に1回の見直しをしています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人日誌や経過表で情報を共有し、ケアプランの評価を日々行い、小さな気づきも気づきノートに記載し、変化が生じた場合は、随時カンファレンスを行い、ケアプランの見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>共用型認知症対応型通所介護（平成20年9月1日開設） デイ利用者との交流</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動（ふれあいサロン、敬老会）への参加や、保育園児との交流、図書館の利用等、豊かな暮らしが出来るよう、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との24時間連携、月2回の往診での医療管理。入居以前からのかかりつけ医に受診されている方もおられる。家族の希望に応じて対応できる事の説明もしている。	ホームでは、利用者や家族の希望でかかりつけ医を決めてもらうようになっています。入居以前からかかりつけの医師に継続して受診している利用者が複数おられますが、それ以外の利用者はホーム提携医をかかりつけ医師として、月2回の往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が従事しており、適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と入・退院時の利用者様に関する情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時や、入居当初に終末期のあり方や、本人、家族の要望等、伺っている。主治医、家族様、職員間で話し合い、「できること、出来ないこと」を見極め方針を共有し、支援に取り組んでいる。</p>	<p>希望者には看取り支援を行う方針があり、ホームでは実際に支援した経験があります。入居契約時に終末期の支援についての説明を行い、家族の希望を聞いています。重度化した場合には看取りについての希望を再確認して、医療と連携した対応を行っています。具体的には家族を交えた話し合いを行い、看取りについての方針を確認し、共有しながら支援しています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時のマニュアルをスタッフルームに掲示し、又、諸注意及びチェック表に基づき全ての職員が対応できるよう緊急対応に備えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を消防隊員の協力得て、利用者参加のもと実施している。	年2回、消防署と連携した災害時避難訓練を行っています。スプリンクラーや、火災時に消防署へ通報するオンコールシステムも導入しています。火災等で非常ベルが鳴れば全館の鍵が自動で開くように設定されていますが、スムーズに作動するか、2方向に準備されている階段から避難できるのか、利用者と共に、非常時を想定した避難訓練をしています。隣接した同法人施設と連携した支援体制もあります。災害発生時に備えて、非常食と水をホーム内に保管しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を尊重し、尊厳を守り、家族のように親しみのある会話で信頼関係を築いている。記録は鍵の掛かるロッカーにて管理している。	利用者に対しては一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。言葉や身体的な特徴、一人ひとりの主張や考え方を理解し、支援するように努めています。	ホームでは職員研修を重視し、職員の育成に力を入れていますが、今後は認知症の接遇や対応についてさらに充実する予定です。大阪府内で行われる外部研修に職員を派遣するなど、今後も更に研修内容を充実することが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや希望が言えるような環境づくりを大事にし、個々に合った対応と自己決定が出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、ペースを大切にしながらも、日々メリハリのある生活を送って頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとり一人の希望に合わせて理美容の利用を支援し、外出時には、お化粧をし、洋服を選び、楽しんで頂けるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味噌汁づくり、盛り付け、配茶等、それぞれの方の得意とされる事を役割とし、楽しみと自信に繋がるよう支援している。	食事は3食ともホームで手作りしています。買物を一緒にしたり、下ごしらえや盛り付けをしたり、配膳や片付けをするなど、利用者は得意なことを役割にして、当番を決めて自主的に取り組んでいます。時には役割が競合するほど、活発に取り組み楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量を記録し、必要量を摂取出来るよう、声かけや、好みの飲み物を提供する等、工夫している。また食事の摂取量を記録し、健康保持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。 週一回義歯洗浄機使用し、また、往診歯科医の所見にて指示を頂き支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を把握し、プライバシーを損ねないように、声かけに配慮し、気持ち良く排泄が出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを確認し、時間を見て声かけをするなど、オムツ類を極力使わない支援をしています。やむを得ずオムツ類を使用する場合にも、目立たないように交換をしています。また、オムツ類の保管や処理については目につかない形で対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認と、水分摂取量の把握、適度な運動を個々に働きかけ取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や、時間はおおよそ決めているが本人の体調や、希望も伺いながら入浴して頂いている。	入浴は週3回を基本にして、利用者の体調や希望に合わせた入浴支援をしています。季節に合わせてゆず風呂なども用意して利用者に喜ばれています。入浴を好まれない場合もありますが、タイミングを見て入浴を勧め、最低でも週1回は入浴されるように支援しています。職員も一緒に入浴することで、納得し入浴される利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活習慣、就寝時間と必要時、就寝時間の調整をしながら、休息、安眠の確保を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書を確認し、誤薬の無いよう、与薬時は日付、名前を読み上げ又、副作用に注意し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意とされることを見出し、それを役割とし、無理強いすることなく、自信と楽しみとなるよう、支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、地域での活動参加等、積極的に行き、個々で事前に希望を伺いゆっくりと出かけられるよう個別に外出を計画し、実行している。	毎朝のように公園に出かけ、体操をしたり、遊びに来ている地域の母子と会話を楽しんだり、周辺を散策したりしています。時には利用者だけで外出を希望される場合があり、職員が後方から見守りサポートすることもあります。利用者一人ひとりの希望を出してもらい「行きたいところに出かける」個別支援もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自己管理が出来る方には所持していただき、又、小口(3千円程度)を預かり管理し、必要時お財布をお渡し使っていただけるよう支援している。毎月出納帳をコピーし、レシートを添付して家族様には郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される際、都度対応し、家族、友人へ手紙のやり取りが楽しみとなるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光がないよう配慮し、季節を感じていただく為の装飾、リビングにソファを置き、ゆったりと落ち着いた雰囲気づくりに工夫している。	リビングにはソファやイスを置き、図書コーナーも設けるなど、利用者がいつでもくつろげるスペースを用意しています。共有空間と居室には乾湿・温度計を置き空調にも配慮しています。リビングからは遠くの山や街並みが見え、近くにはモノレールが走り、眼下には公園が一望できるという楽しみもあります。また、1階ロビーを喫茶コーナーにして、利用者や家族が自由に過ごせる場所として提供しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々ご入居者が落ち着く場として、廊下にベンチや椅子を置く等、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や置物、思い出のアルバム、仏壇等お持ちの方もあれば、入居時に新しく購入された方もおられるが、環境にも慣れ居心地よく過ごされている。	利用者は使いなれた家具や好みの装飾品を持参し、手作りの作品や写真などを飾って、それぞれが特徴のある居室になっています。室内は清潔に整えられ、窓を開けて空調をするなど、職員は利用者が居心地良く過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場など、移動に必要な場所には手すりをつけ、表示する等、安全に配慮し、自立した生活が送れるよう工夫している。		